



入り戦舌新現

立候補者 (右から届け出順・敬称略)



郡山市長選告示

子育てなど焦点

16日 投票開

品川 万里 (しながわ まさと) 72 市 長 無現
【略歴】東大法学。法大教授、NITテータ副社長、大阪大客員教授、郵政審議官、放送行政局長、貯金局長。郡山市富久山町久保田字水神山85の4

【政見】市民総活躍で郡山創生。子本主義型地域共生郡山。被ばく対策、自然災害対策強化。道路交通システム改善。行財政改善。官師士業連携

浜津 和子 (はまつ かずこ) 63 無 職 無新
【略歴】茨城キリスト教短大卒。市議1期、市市民部長、保健福祉部次長、参事・社会福祉課長、ことも課長。郡山市田村町徳定字蚕沢31

【政見】経済発展と生活の充実により活力と創造あふれる都市を目指す。小・中学校の給食費無料へ。地元企業の発展と企業誘致により交流人口を増やす

任期満了に伴う郡山市長選は9日、告示され、いずれも無所属で、再選を目指す現職の品川万里氏(72)＝1期＝と、新人で前市議の浜津和子氏(63)の2人が立候補を届け出た。両候補は出陣式の会場に詰め掛けた支持者を前に第一声を放ち、16日の投票票に向けて7日間の選挙戦に入った。

東日本大震災と東京電力福島第1原発事故から6年が経過し、4年前の市長選で関心の高かった復興施策は争点となっていない。子育て支援や中心市街地活性化の在り方、市の将来像などを、市民にどう示せるかが焦点となっている。

品川氏は1期4年の実績を強調、組織力を駆使して浸透を図る。浜津氏は女性による変革を訴え、反現職勢力の結集を狙う。

市議補選(欠員2)も同日日程で9日、告示され、新人3人、元職1人の4人が立候補を届け出た。